



日本基督教団 梅ヶ丘教会会報

ぶどうの木

発行人 牧師 広田叔弘
企画編集 広報委員会
www.church.ne.jp/umegaoka/
2026年6月28日発行

〒155-0033
東京都世田谷区代田 3-37-7
TEL: 03-3414-5772
FAX: 03-3414-5778

第276号 2026年 7月号



『夏至』

牧師 広田叔弘

生涯の日を正しく数えるように

教えてください。

知恵ある心を得ることができそうです。

詩 90編 12節

6月21日は夏至。午後の7時を過ぎても外は明るかった。一年の半ばが過ぎようとしています。教会へ向かう緑道を歩きながら、「これからクリスマスへ向かうのか・・・」ボンヤリと考えていました。振り返れば時の経つのは早いものです。

詩人は詠います。「生涯の日を正しく数えるように教えてください」と。何を数えるのでしょうか。人生の日数のことではないと思います。今日、終わりを迎えても不思議のないのが私たち命です。過去を見ることは出来ません。しかし将来を見ることができません。人生の日々がどれだけあるのか、私たちには分からない・・・この事を考えれば儚いのが人の歩みです。そして詩人は「教えてください」と祈ります。定めがたい世の歩み。しかし毎日を生かす方がいる。詩人は、神さまの働きを見えています。見失いたくないのです。そこで知恵ある心を求め、生涯の日々の中にある神の働きを、正しく数えることが出来るようにと祈るのです。

先日、高校生と話をしました。前年度に教えた生徒です。家庭に事情があります。高校生には負い切れないと見える現実を抱えています。私は聞きました。「どうなった?」。彼女は答えます。「ウーン、変わらない」「そうか・・・」。そして言うのです。「でも祈っている。祈ってごらんって言ってくれたでしょう。だから毎晩寝る前に祈っているの」明るく言いました。「アア、受け取ってくれたのだ」と思いました。厳しい状況に変わりはありません。しかしそこに祈りがある。私の勝手な思いなのかもしれませんが。この言葉を聴いたとき、その子の現実にひと筋の光が差したように感じたのです。

私たちの日常生活は課題で満ちています。先のことを考えても何もわかりません。あれこれと思い悩むうちに時は過ぎて行きます。そうであればこそ詩人は、神の働きを覚えることが出来るようにと祈るのです。

神さまの最大の働きは、御子キリストを世に与えたことです。先々のことを考えてため息をつく日があります。しかしそれ以前に、主が生きて働いていることを覚えたいと思います。この方に愛され、この方を愛することが、私たちの救い。生きる力です。

夏至を迎えました。もうすぐ夏が来ます。今日ひと日、主を仰いで歩んで行きましょう。